

解釈はなぜ必要なのか



安息日午後 5月2日

今週のテーマ

暗唱聖句

信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることを、必ず信じるはずだからである。(ヘブル 11:6、口語訳)

信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。(ヘブライ 11:6、新共同訳)

今週の聖句

ルカ 24:36～45、1コリント 12:10、14:26、使徒言行録 17:16～32、ヨハネ 12:42、43

聖書を読むことは、聖書を解釈することをも意味します。しかし、私たちはいかに聖書を解釈すればよいのでしょうか。どのような原則を用いればよいのでしょうか。例えば、そこに見いだすさまざまな種類の文書をどう扱うべきでしょうか。私たちが読んでいる箇所は、たとえ話、預言的象徴的な夢、歴史的物語のどれでしょうか。聖書の文脈に関するこういう重要な疑問への答えには、解釈という行為そのものが含まれています。

時として、聖書を神の宣託として用いる人たちがいます。つまり、指針を与えてくれる聖句を願い求めて、ランダムに開くのです。しかし、ランダムに開いた聖句を結びつけるなら、非常に奇妙で間違った結論に至る可能性があります。

例えば、ある夫が妻を捨てて別の女のところへ行ってしまったとき、その妻は次の聖句を見いだして、大きな確信を得ました——「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに」(創 3:15、口語訳)。この聖句を根拠に、その妻は、自分の夫の不倫が長く続かないだろうと確信したのです!

文脈(背景)を無視した聖句は、個人的な意図や考えの口実になります。それゆえ、ただ聖書を読むのではなく、それを正しく解釈する必要があるのです。

問1 ルカ24：36～45を読んでください。弟子たちは聖書をよく知っていましたが、その中で預言されていた出来事が目の前で起きたときでさえ、なぜ彼らは神の言葉の真の意味を理解できなかったのですか。

まっさらな心で聖書の言葉に向かう人はいません。聖書を読む人、学ぶ人はみな、解釈の過程に避けがたく影響を及ぼす特定の歴史と個人的経験を伴って聖書に向かいます。弟子たちでさえ、当時の期待に基づいて、メシアとはどういう人で、どういうことをするはずだという特定の考えを持っていました。弟子たちの強い確信が聖句をはっきり理解する妨げになりましたが、そのことは、彼らがイエスと、イエスの人生、死、復活にまつわる出来事をしばしば誤解した理由を説明するのに役立ちます。

私たちはみな、この世について、死について、神について、さまざまな考えを持っており、聖書を解釈するときに、(非意図的であれ、無意識であれ) それらを前提にしたり、受け入れたりしています。空の心で聖句に近づく人はいません。例えば、だれかの世界観が神による超自然的介入を全面的に否定するものであれば、その人は、神が歴史の中でなされたことの真の報告、信頼できる報告として聖書を読み、理解することはないでしょう。彼は、超自然の現実を受け入れる人とはまったく異なる解釈をするでしょう。

聖書の注釈者たちは、その人の過去、経験、内在する考え、先入観や思い込みから完全に自由にはなれません。完全な中立性や絶対的な客観性を実現することができないのです。聖書研究も神学的熟考も、この世の性質や神の御性質に関する前提を背景として常になされます。

しかしありがたいことに、私たちが偏見のない正直な心で聖書の言葉を読むとき、聖霊が私たちの限られた観点や前提を広げ、矯正することがおできになります。聖書は、非常に異なる背景を持つ人々が神の言葉を理解できると、また聖霊が私たちを導いて「真理をことごとく悟らせる」(ヨハ16：13)と、繰り返し断言しています。

この世に関するあなたの前提には、どのようなものがありますか。どうしたらその前提をすべて神の言葉に服従させ、御言葉そのものがあなたの考えを作り変えて、聖書の教える現実ともっと調和するようになるのでしょうか。

聖書は非常に古い言語によって書かれました。旧約聖書は大部分がヘブライ語（ごく一部はアラム語）で書かれ、新約聖書はギリシア語で書かれました。今日、世界に住む大多数の人が、これらの古代の言語を話すことも読むこともしません。それゆえ、聖書はさまざまな現代の言語に翻訳されなければならないのです。

しかし、良い翻訳者ならだれもが知っているように、すべての翻訳にはある種の解釈が伴います。ある言語のある言葉は、ほかの言語の中に当てはまる言葉がないからです。聖句を慎重に翻訳し、それから解釈する技術は、「解釈学」と呼ばれています。

問2 1コリント12:10、14:26、ヨハネ1:41、9:7、使徒言行録9:36、ルカ24:27を読んでください。これらすべての聖句の中に、私たちは解釈と翻訳に関する考えを見ます。ルカ24:27では、イエスさえ聖句の意味を弟子たちに説明しなければなりません。このことは、解釈の重要性についてどのようなことを教えていますか。

「解釈学」（聖書の解釈）を意味する英語の‘hermeneutics’という言葉の元になったギリシア語の「ヘルメニューオ」は、ギリシアの神ヘルメスから派生した言葉です。ヘルメスは神々の使い、使者と考えられていたので、数ある務めの中でも、特に神のメッセージを人々に伝える責任を負っていました。

解釈学に関して重要な点は、もし私たちが原語を読まないのであれば、翻訳を通じてしか聖書の言葉に触れられないということです。幸いなことに、多くの翻訳が聖書の本質的な意味を伝えるために良い仕事をしています。たとえ原語の言語的知識が有益であるにしても、聖書の中に啓示されている重要な真理を理解するうえで、私たちは原語を知っている必要はありません。しかし良い翻訳を用いても、ルカ24:27で見たように、聖句の適切な解釈も重要です。解釈学の主要な目的とは、聖句の意味を正確に伝え、聖句の教えを現在の私たちの生活に正しく適用する仕方をわかるようにすることです。先のルカの聖句が示しているように、イエスは御自分の弟子たちのためにこのことをなさいました。イエス御自身があなたのために聖句を解釈してくださったとしたら、それはどのようなものだったのでしょうか。想像してみてください！

聖書のさまざまな翻訳を利用できる人は大勢いますが、利用できない人も大勢います。どの翻訳を用いなければならないとしても、折りつつ御言葉を研究し、その教えに従おうとすることは、なぜ重要なのですか。

問3 使徒言行録 17:16~32 を読んでください。パウロはこの17章において、ギリシア文化の哲学という新たな背景の中で福音を伝えようとしていました。異なる文化的背景は、私たちがさまざまな考えの重要性を評価する仕方に、どのように影響するのでしょうか。

中近東の文化に関する予備知識は、聖書のいくつかの箇所を理解するのに役立ちます。「例えば、ヘブライの文化は、ある人が犯した行為でなくても、その行為が起こるのを彼が黙認したのであれば、責任をその人に帰した。それゆえ、靈感を受けた聖書記者たちは、例えばファラオの心がたかくなかったことなど、西洋の考え方では、神がそうなことを許されたとか、止められなかったと言うであろうことを、神が積極的にそうなさったと通常考えるのである」(『聖書研究の方法』第4部、英文)。

文化はまた、解釈学上の重要な問題をいくつか提起します。聖書は文化的に条件づけられており、それゆえ聖書が主張することは、その文化にだけ関係しているのでしょうか。それとも、特定の文化の中で与えられた神のメッセージは、その特定の文化を超えて、すべての人間に語りかけているのでしょうか。もしある人の文化的経験が私たちの聖書解釈の基礎になったり、試金石になったりするとしたら、一体どういうことになるのでしょうか。

使徒パウロは使徒言行録 17:26 で、人々がこの聖句を読むときにしばしば見逃している、現実に関する興味深い意見を述べています。彼は、神が私たちすべてを1人の人から造り出された、と言っています。私たちは文化的に多様ですが、聖書的に言えば、その文化的違いにもかかわらず、すべての人を結びつける共通点があります。なぜなら、神が全人類の創造主だからです。私たちが罪深いこと、救いを必要としていることは、一つの文化に限定されません。私たちはみな、イエス・キリストの死と復活によって提供される救いを必要としています。

神は、特定の時代の人々に語りかけられましたが、神の言葉を読む未来の世代が、聖書の書かれた頃の地域の状況や限られた状況を超えるその真理を理解できるように、取り計らってくださいました。

似たようなこととして、代数は最初、9世紀にバグダッドで発明されました。だからと言って、数学のこの一分野の真理や原理は、その時代やその場所だけに限定されているのでしょうか。言うまでもなく、限定されていません。

同じことが神の言葉の真理についても言えます。聖書は現代の私たちの文化と極めて異なる文化の中で、大昔に書かれたものですが、そこに含まれる真理は、最初に伝えられた人々と同様、現在の私たちにも有意義なのです。

問4 ヨハネ 9：39～41、12：42、43 を読んでください。これらの人たちは、なぜ聖書のメッセージの真理を受け入れることができなかったのですか。これらの出来事から、私たちはどのような警告と注意の言葉を得られますか。

説得力のある証拠にもかかわらずイエスを拒絶した宗教指導者たちを、軽蔑の目で振り返ることは容易です。しかし私たちは、御言葉に関して同じような態度をとらないように自ら注意する必要があります。

罪が私たちと神との関係を変え、引き裂き、破壊したことは、疑問の余地がありません。罪は人間存在のあらゆる側面に影響を及ぼしています。罪はまた、聖書を解釈する私たちの能力にも影響しています。私たち人間の思考過程が容易に罪深い目的のために用いられるだけでなく、私たちの思いや考えは、罪によって墮落したので、神の真理に閉じてしまっているのです。この墮落は、次のような特徴として私たちの思考の中に見いだされます——高慢、自己欺瞞、疑い、敬遠、不服従。

高慢な人間は、自分自身を神や御言葉よりも上に置きます。なぜなら、高慢は真理を（聖書の中に見いだされる真理でさえ）最終的に決定するものとして人間の理性を過度に重視するよう、解釈者を導くからです。このような態度は、聖書の神の権威をおとしめます。

ある人たちは、たとえ神が啓示された御旨とは矛盾している考えでも、自分にとって魅力ある考えだけに耳を傾ける傾向があります。神は自己欺瞞の危険性について、私たちに警告なさいました（黙 3:17）。また罪は疑いを助長します。その疑いの中で私たちは迷い、神の言葉を信じなくなります。疑いを持って始めるとき、聖句の解釈は決して確信をもたらしません。それどころか、疑っている人はすぐに、聖書の中で何が受け入れられ、何が受け入れられないかを判断する立場へ自分自身を高めるのです。それは、立ち続けるにはとても危険な立場です。

むしろ私たちは、批判や疑いの態度ではなく、信仰と服従によって聖書に近づくべきです。高慢、自己欺瞞、疑いは、（確実に不服従をもたらす）神や聖書を敬遠する態度、つまり神が啓示された御旨に従うことを避けようとする気持ちをもたらします。

あなたは、聖書の中で読んだことから得た確信に逆らっている自分に気づいたことがありますか。聖書は何かをするようにはっきり指示しているのに、あなたは違うことをしたいと思ったことがあるでしょうか。どうになりましたか。また、その体験から何を学びましたか。

問5 ネヘミヤ8:1~3、8を読んでください。聖書をはっきり理解することは、個人としてだけでなく、教会としての私たちにとって、なぜ重要なのですか。

聖書における最も重要な問題は、救いと、私たちがどのように救われるかという問題です。すなわち、永遠の視点において、ほかに重要なことがあるでしょうか。イエス御自身が言われたように、この世が提供するものをすべて手に入れても自分の命を失ったら、何の役に立つでしょうか（マタ16:26）。

しかし、聖書が救いについて教えていることを知ることは、解釈によって大きく左右されます。もし私たちが聖書に近づき、間違っただけでそれを解釈するならば、救いの理解においてだけでなく、聖書が教えるほかのあらゆることにおいても、きっと誤った結論に達するでしょう。実際、使徒たちの時代でさえ、すでに神学的誤りは教会に入り込んでおり、間違いなく、それは聖書の間違っただけの解釈によって支持されたものでした。

問6 IIペトロ3:15、16を読んでください。この箇所は、聖書を正しく読むことの重要性について、どのようなことを教えていますか。

確かに、もし私たちが聖書の民であり、聖書によって、しかも聖書のみによって生きたいと願う——伝統（言い伝え）や信条、あるいは聖書を解釈するための教会の教える権威など、聖書以外の権威の源を持たない——のであれば、聖書を正しく解釈することはとても重要です。なぜなら、私たちが何を信じ、どう生きるべきかを教えてくれるのは、聖書しかないからです。

聖書の解釈の問題は、教会の神学的、宣教的健全さにとって極めて重要です。聖書を正しく解釈することなしに、教理や教えの一貫性はありえませんし、教会と宣教の一貫性もありえません。悪い、ゆがんだ神学は、欠陥のある、ゆがんだ宣教を必ずもたらします。結局のところ、もし私たちがこの世に伝えるべきメッセージを持っているのに、そのメッセージの意味について思い違いをしているなら、それを聞く必要のある人々に、どうして効果的に伝えることができるのでしょうか。

黙示録14:6~12の三天使の使命を読んでください。ここでの神学的問題は何ですか。それらを正しく理解することは、私たちの宣教にとって、なぜ重要なのですか。

参考資料として、『キリストへの道』の「疑いをどうするべきか」の章を読んでください。

「み言葉を研究する時には、先入観や先天的あるいは後天的な観念を、研究の門口に置いて来なさい。自分の意見を擁護するために聖書を研究するのでは、真理に到達することができません。そうした考えは門口に置いて、砕けた心で入って行き、神がお語りになる言葉に耳を傾けなさい。

キリストの足もとに座り、謙遜な心で真理を求め、キリストについて学ぶときに、み言葉を理解することができます。聖書研究に自信のある賢い人に向かって、キリストは、救いの知恵を得たいならば柔和で心の謙遜な者になりなさいと言われます。

既成概念で聖書を読まないで、偏見を心から取り去って、注意深く祈りのうちに聖書を調べなさい。読んでいて、ある確信に到達し、自分がこれまで抱いていた意見がみ言葉に一致していないことがわかったら、み言葉を自分の意見に従わせようとしてはなりません。自分の意見をみ言葉に一致させるようにしなさい。過去の信念や習慣によって理解力が支配されてはなりません。心の目を開いて、律法の中から実に素晴らしいことを見いだしなさい。そこに何が書かれているかを見いだし、永遠の岩の上しっかりと立ちなさい」（『希望への光——クリスチャン生活編』472ページ、『若い人たちへのメッセージ』257ページ）。

話し合いのための質問

- ① 私たちの世界観、教育、文化は、聖書の解釈にどのような影響を及ぼしますか。私たちが避けがたく聖書の解釈に持ち込んでしまう外的影響を認識しておくことは、なぜとても重要なのですか。
- ② 人間が罪深く、罪によって否定的な影響を受けていることを、私たちはみな認めています。罪は、私たちの聖書の読み方にどのような影響を与えていますか。言い換えれば、罪は、私たちが神の言葉を間違って解釈するように、どんなことを私たちに対してするのでしょうか。例えば、聖書で禁じられている何かをしたいという欲求のために、私たちはいかに聖書を歪めて読む可能性があるのでしょうか。ほかにどのような形で、罪は私たちの聖書の解釈の仕方フィルターをかけることがあるのでしょうか。
- ③ 聖書の時代と文化をより深く理解することは、聖書のある箇所をより良く理解するうえで、いかに助けとなりますか。いくつか例を挙げてください。